

今回は、平成28年6月5日(日)に行われました平成28年度口腔顔面痛ベーシックセミナーについて、東京医科歯科大学の山崎陽子先生に、報告していただきます。

平成28年度口腔顔面痛ベーシックセミナー参加報告

東京医科歯科大学 口腔顔面痛制御学分野 山崎陽子

口腔顔面痛ベーシックセミナーは、平成28年6月5日(日)に慶応義塾大学病院にて開催された。新設されたレビューコースであり、主に新入会員を対象としたセミナーであるとのことだったが、基礎から臨床まで必要とされる知識がコンパクトに整理されており、日頃より口腔顔面痛の治療にあたっている会員にも充実感のある内容であった。



会場風景

午前からは「口腔顔面痛に必要な神経解剖の知識」を松本歯科大学の金銅英二先生より御講演いただき、「口腔顔面領域の痛みの生理学と薬理学」を日本大学歯学部篠田雅路先生より御講演いただいた。神経解剖については中枢神経の発生の段階から順を追って御説明いただき、具体的な図を使用して脳の構造や神経走行を確認することができた。生理学では神経活動の基礎的復習を、薬理学では分子レベルの薬理学的効果機序についてお話いただいた。久しぶりに徹底した基礎の内容を聴講された先生も多かったと思われるが、

分かりやすく理解できるように工夫されている講義内容であった。アセトアミノフェンの使用法や神経活動の変化についての質問には、講師の先生方に詳しくご回答いただいた。続いて「口腔顔面痛の概念」を慶應義塾大学の和嶋浩一先生より御講演いただき、口腔顔面痛確立までの背景や口腔顔面痛の分類などについて、具体的な症例も交え、総合的にお話しいただいた。

休憩をはさみ、「口腔顔面痛に必要な医療面接」を日本大学松戸歯学部の大久保昌和先生に、「筋・筋膜性疼痛

について」を日本歯科大学の原節宏先生および日本大学松戸歯学部の小見山道先生に御講演いただいた。医療面接の講義では効率的に、かつ見落としなく症状を聴取するために必要な知識を御教示いただき、より多くの疾患を知る大切さをお話しいただいた。口腔顔面痛で遭遇することの多い筋・筋膜性疼痛については関連痛の復習に加え、ビデオを供覧して筋の周囲の解剖学的構造や、筋の触診法を確認することができた。会場から用語の使用法について質問があり、これに対するディスカッション後、午前の部を終了した。



質問に答える講師の先生方

午後の部は、「神経障害性疼痛の基礎知識」

を日本大学歯学部の今村佳樹先生に、「痛みのメカニズムに基づいた薬物療法の実際」を川崎市立井田病院の村

岡渡先生に、「口腔顔面痛に必要な頭痛の知識」を大久保昌和先生に御講義いただいた。神経障害性疼痛の基礎知識では分類や病態，検査法について御教示いただいた。薬物療法の実際には，症例を供覧しながら薬物療法について実際の使用法を御説明いただいた。また口腔顔面痛に必要な頭痛の種類や診断基準について詳しく御教示いただいた。

休憩の後，「口腔顔面痛に必要な精神医学的知識」を小見山道先生，「口腔顔面痛を生じる全身疾患と診断に必要な診査・検査」を東京歯科大学の福田謙一先生，「診断実習セミナーのための臨床診断推論」を和嶋浩一先生



質疑応答の風景

に御講義いただいた。精神医学的知識では口腔顔面痛と関係の深い精神疾患と特徴，対処法を知ることができた。また口腔顔面痛を生じる可能性がある全身疾患の種類と検査法を，実際の症例と絡めながらお話しいただいた。そして，臨床診断推論では実際にどのように診断を進めて行くかをステップごとに御説明いただいた。

総合質疑応答では，会場の先生から診断法と患者対応も含めた治療法について，NSAIDs の使い分けについて，治療に伴う痛みの可塑性について，三叉神経痛での聴覚における臨床症状についてなど様々な質問があった。どの質問も臨床

に密接した質問であり，大変熱心に質問なさっている姿に，日々，口腔顔面痛の患者を悩みながら診察していることが伺えた。また，講師の先生方はそれぞれの質問に対して，丁寧に御回答いただいた。最後にポストテストを行い，セミナーの全プログラムを終了した。ポストテストには，当日講義なさった先生方が伝えたかったと思われる内容が凝縮されているように感じた。後日，このテストと配布された2冊のテキストを見直すことで，本セミナーで得た知識を効率的に復習することができた。

本セミナーは今後毎年開催されるとのことである。今回参加できなかった先生も，知識の整理を行うことができるセミナーであるので，機会があればぜひ参加してみることをお勧めする。